

足立税務署長賞

「命をつなぐ税金」

足立区立 千寿桜堤中学校

三年 中村 碧

夏休みの宿題で税の作文を書くことになり、私はどんなテーマにしようか迷っていました。そんなときテレビに「災害級大雨」という文字が映し出されました。その文字を見て、災害が起きたとき税がどう使われているのか気になり、詳しく調べてみました。災害が起きた直後、まず一番大切なのは人の命を助け、守ることです。そのために、自衛隊や消防、警察による救助活動や、避難所の設置が行われます。これらの活動には多くのお金がかかりますがその多くは税金でまかなわれています。私はこの他にも税金によって行われている助けがどのようなものか知りたくなり、もっと詳しく調べてみることにしました。

すると、災害でけがをした人のため、医療チームや薬の手配、医療機器など、病院での対応にも税金が使用されていると分かりました。これにより、安心して治療を受けることができます。また、地震や豪雨などにより、ライフラインが止まってしまうと、水道や電気、ガスなどを元に戻すための工事が実施され、道路や橋の復旧作業にも多額の費用が必要です。災害後の復興は全て税金によって支えられていると感じました。これは、災害後の復興に限ったことではありません。

税金は、災害が起きる前の防災対策にも使われています。例えば、川の堤防や警報システム、学校の防災教育などです。これら

があることにより、災害が起きたとしても、その被害を減らすことができます。

これまで、災害の観点から見て「税金がどのように使われているのか」について調べてみましたが、逆に「税金が無かったらどうなるのか」について考えてみました。

もし税金が無かったら、災害が起きたときに私たちを守ってくれる仕組みそのものが無くなってしまいます。命や生活がお金のあるなしで決まってしまう、不公平な社会ができてしまいます。また、災害時に誰かを助けたいと思っても、何もすることができなくなってしまうです。

私はこの作文を通して、災害に対する税金の使われ方を知ることができました。また、税金のイメージが変わりました。今まで、なぜ払わなくてはならないのかと疑問を持ったり、増税に不満を感じていましたが、今はもう違います。税金は「社会全体が力を合わせて命や暮らしを守るための大切なしくみ」だと思います。増税に対して不満をもつ人も多いですが、税の仕組みや使われ方をもっと知れば、その理由が見えてくるのではないかと思います。私は、ただ文句を言うのではなく、税について正しく知ることが大切だと感じました。